オーディオ実験室収載

TruPhase の活用(15)
—音源の位相確認(15)—

１．はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(14)に引き続き CD の位相確認を行います。

２．TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(8)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、バッハの作品で下記のとおりです。

ドイツグラモフォン　POCG-90107
J.S.Bach　イギリス組曲他
ウイルヘルム・ケンプ

Hyperion　CDA67980
J.S.Bach　フーガの技法
Angela Hewitt

MARARE　MAR 248
J.S.Bach　イギリス組曲他
Remi Geniet

SONY　SICC 30167-68
J.S.Bach　イタリア協奏曲他
アンドレア・パケッティ

３．TruPase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうかが焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

ウイルヘルム・ケンプ盤は、位相反転させると定位がしっかりして、音の焦点があってきます。位相反転させないと定位が曖昧で音の焦点がぼやけます。ケンプの演奏のアナログ盤も位相反転した場合が良いケースがほとんどです。
Angela Hewitt 盤は、フーガの技法のピアノ編曲版です。位相反転させると定位が曖昧になり音の焦点がぼやけます。位相反転させないと定位がしっかりして、FAZIOLI の音の焦点があってきます。
Remi Geniet 盤は、位相反転させると定位が曖昧になり音の焦点がぼやけます。位相反転させないと定位がしっかりして、スタンウェイらしいの音の芯が通ってきます。
アンドレア・パケッティ盤は、位相反転させると定位が曖昧になり音の焦点がぼやけます。位相反転させないと定位がしっかりして、FAZIOLI らしい抒情的なバッハが聴けます。

４．まとめ

TruPhase での位相反転と Brooklyn DAC+での位相反転の結果は、ウイルヘルム・ケンプ盤は逆相、その他は正相であることが分りました。

以上